

手話サークルアンケート結果

資料 3 - 3

対 象 : 長浜市内で活動する団体 4 団体

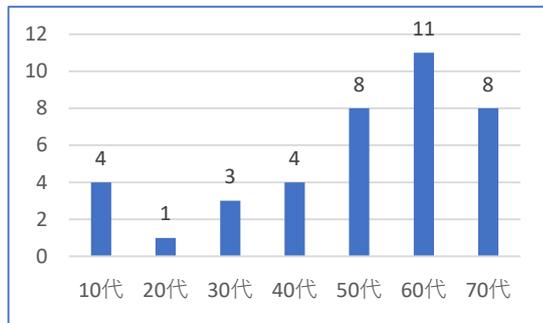
回答者 : 39 名

回答方法 : 郵送

調査期間 : 令和 3 年 10 月 19 日 ~ 令和 3 年 11 月 5 日

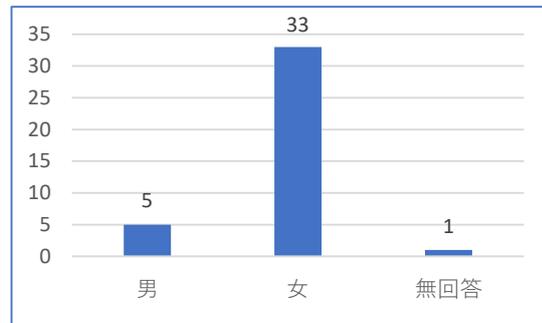
1. 手話サークルからの回答者の年齢構成

年代	人数
10代	4
20代	1
30代	3
40代	4
50代	8
60代	11
70代	8



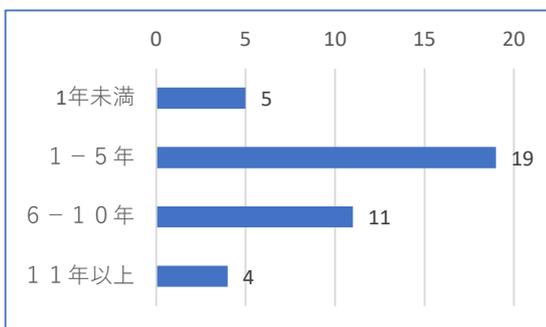
2. 手話サークルからの回答者の男女構成

性別	人数
男	5
女	33
無回答	1



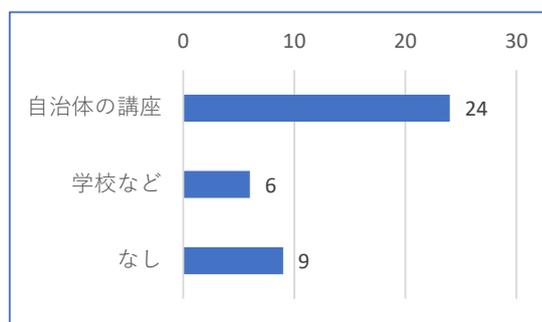
3. 手話サークルからの回答者のサークル歴

年数	人数
1年未満	5
1 - 5年	19
6 - 10年	11
11年以上	4



4. 手話サークル以外に手話を学んだ場所

講座	人数
自治体の講座	24
学校など	6
なし	9

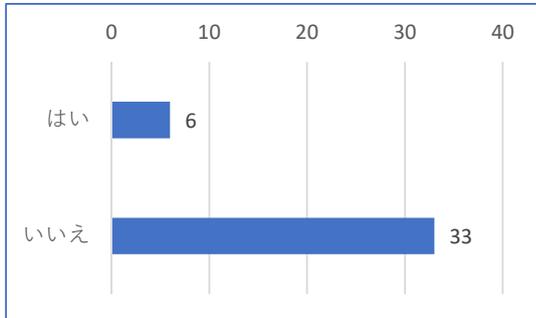


5. 手話を始めたきっかけ

- ・仕事の時に使えたらいいなと・手話の表現がとてもきれいで勉強したいと思った。
- ・昔から興味があって時間ができたから。
- ・人に誘われた。・ろう者と会話ができたらいいなと思った。・TVドラマを見て。(3人)・市の手話講座を受講して
- ・地域の「初めての方でも参加できる手話講座」を受講して
- ・ろう者とのコミュニケーションが取れるようになりたい。
- ・興味があったから・病気になって声が出なくなった時、手話で伝えたい(3人)。
- ・友人に手話で話す人がいる。・友人に誘われて。
- ・友人に手話で話す人がいる。・小学校の図書室で手話の本を読んで興味をもったから。・広報ながはまを読んで興味を持った。
- ・定年後の残された余暇時間を地域社会に貢献するため。・小学校の時から覚えたかった。・友人が難聴になって覚えて欲しいと言われたから。
- ・初級手話講座を受講しさらに本格的に手話を通してろう者とのコミュニケーション、ろう文化を学びたい。
- ・ひとつの言語として勉強したいと思ったから。近くにろう者の夫婦がおられますが、何かの時に役に立てればと。
- ・前から手話を勉強したいと思っていました。退職後聴覚障害者センターまで通いました。
- ・みみの聞こえが悪くなってきたので。
- ・母のすすめ・マスクの時代になり困ってる方が多いときいたから

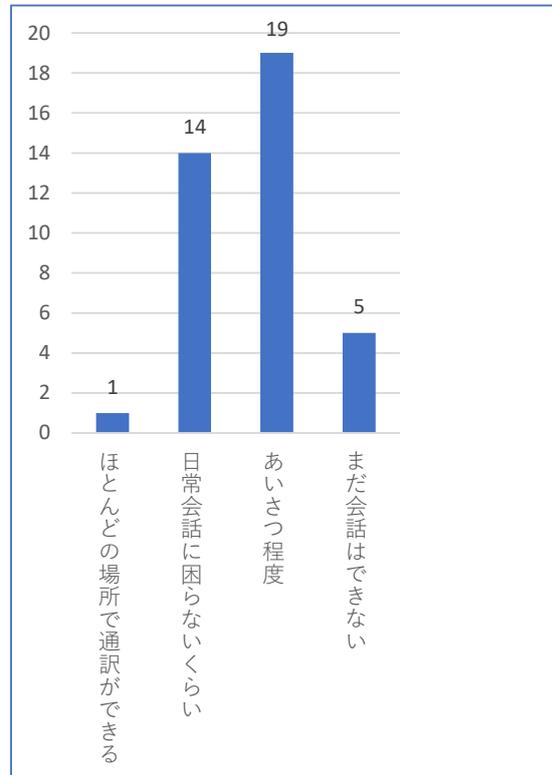
6. 手話通訳者の資格を目指しているか

回答	人数
はい	6
いいえ	33



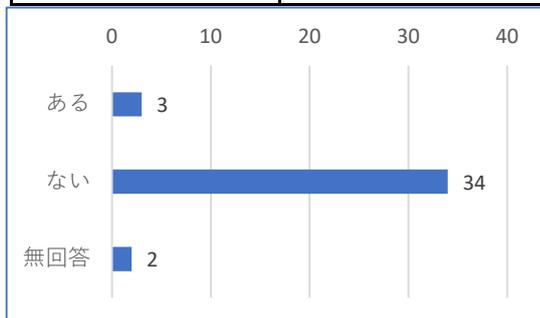
7. 手話でどれくらい会話ができるか

回答	人数
ほとんどの場所で通訳ができる	1
日常会話に困らないくらい	14
あいさつ程度	19
まだ会話はできない	5



8. 家族や友人を含め無償で手話通訳を行うことがある

回答	人数
ある	3
ない	34
無回答	2



9. どれくらいボランティア（無償）で手話通訳を行っているか

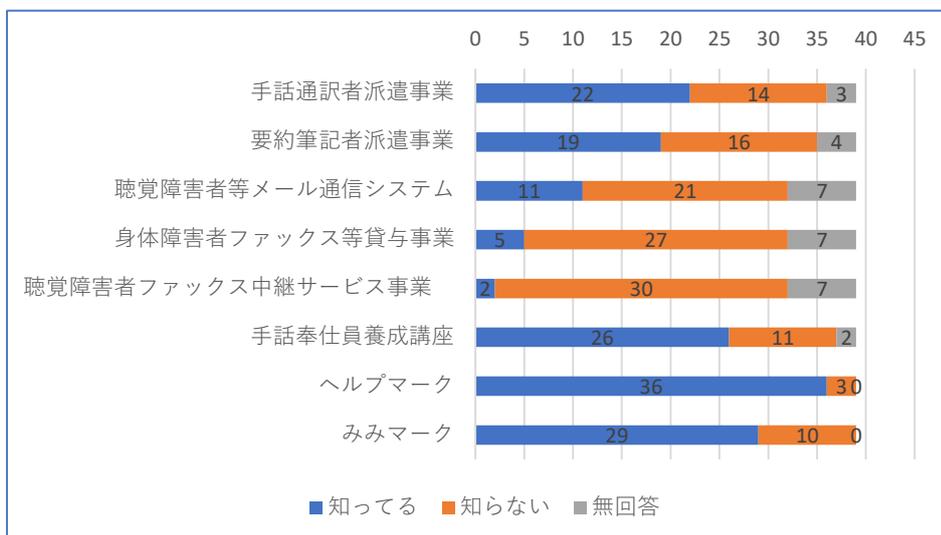
頻度	人数
頼まれた時だけ	1
1年に1・2回	1
数回/年 10～20分	1

10. 手話で通訳（会話）をしている時困ること

- ・特になし
- ・人によって手話の表し方が違う。・読み取りが難しい。・それぞれに表現が少し違ったり動きのクセなどがあるので理解に時間がかかることがある。・それぞれにクセもあるので、どうしても読み取りに苦手意識を持ってしまう。・人によって手話表現の癖がある。・人それぞれ癖があり表し方も違うので読み取りが難しい。・知識や経験不足が大きいですが、読み取りに困る（一回躓くと焦ってしまう）。
- ・スピードが速いとなかなか読み取れない。・ろうの方たちの手話が速いと読み取れないことがある。・ろう者とのコミュニケーションにおいて、スピードに慣れていないため、読み取りが難しい。・ネイティブサイナーの方の手話が早かったり、略されていたりすると読み取れない。
- ・わかったフリをしてしまったり、伝わらずに残念な気持ちになったり、させてしまったりするので読み取りが上手になりたい。
- ・まだ困る域まで達していない。・まだ経験がありません。
- ・単語が分からない。・休んでいた間に新しい手話が増えていて何か分からなかったり、今は使われてない手話と言われ戸惑う。・新しい言葉の手話が分からない時があり、又、新しい言葉の手話がろう者に通じない事もある。・普段使っていない言葉（手話）表現があった時。
- ・普段ろう者の人と関わる機会がほぼないので、いざろう者の人と面と向かって会話するときに緊張してしまう。・日常で会うことがほとんどなく使う機会がサークルに限られるので、もっと交流できる場が欲しい。
- ・盲ろう者の通訳をしたことがあります。通じない時があり困りました。指文字などで伝えました。・指が曲がらない手話がある。
- ・通訳者を見ていない時がある。・隣と話し出す。

11. 12. 13 長浜市の事業の認知率

事業	知ってる	知らない	無回答
手話通訳者派遣事業	22	14	3
要約筆記者派遣事業	19	16	4
聴覚障害者等メール通信システム	11	21	7
身体障害者ファックス等貸与事業	5	27	7
聴覚障害者ファックス中継サービス事業	2	30	7
手話奉仕員養成講座	26	11	2
ヘルプマーク	36	3	0
みみマーク	29	10	0



1 4. 手話通訳士（者）を増やすために、どのような取組が必要か

- ・学校（小・中・高）などで手話にふれ合う事が良いと思う。・自然に見て覚えたりそれが必要。・若い時から始める事がとても良いと思います。・仕事として時給をしっかりと支払う。・市の講座を増やしてほしい。・言葉（たとえば英語）などと同じように、早い時期から子どもたちが手話に触れる機会をつくることで、大人になってから改めて学ぶ時のハードルを下げるができると思う。・日常の中にある（学校で少しの時間でも長く続けて取り組むなど）という環境が、手話への意識をつくっていくと思う。
- ・「福祉＝ボランティア」という考えが根強いので通訳の資格があっても、ほかの言語の通訳と違い収入が安定しないイメージもあるので、収入の保証として（検定1級なども含め）給与を上乗せするなど、取得者が「もっていて良かった！」と思える取組みも大切だと思う。そして、それらをアピールしていくこと。・社会全体の福祉への意識
- ・理解をもっと高める。・興味をもってもらえるようなイベントを行う。・小学生の頃から学校で教科の一つとして勉強されると良いと思います。・今、一年に1時間1学年（ほとんどが4年生）だけされているところがありますが、小さい時から数多くやらなくては上達しないと思います。・若い人が勉強できる機会。・賃金や身分の保証。
- ・学校教育の中に中学生、小学生、高校生に時間を設けて意識を高めてもらうようにすればいいかと思います。・若い年代の人が手話について関心をもち勉強したいと思う気持ちが必要ですが、自分の周りに障害者がおられないと心配ないということになってしまいがち。聴覚しょうがい者との交流会などがあればきっかけにもなるのではないのでしょうか。
- ・手話は、若い時代に覚えることが大事なので小学校・中学校などで学ぶことが必要。
- ・親せきの中に聴覚障害者の方がおられますが、つい手ぶりや口を動かすことにより通じることがあるので手話を使うことが出来ないことがあります。・がんばって基礎を勉強し手話を使って接していけるようにと努力したいと思います。・手話通訳士が働ける就職先をもっと世間に大きく表明すればいいと思う。・もっといろんな職場に聴覚しょうがい者が参加できる場が必要。・まだ参加して数回です。意見はありませんが、今私は手話という活動に触れられている事がしあわせと感じていますので、まずは知り、参加してみることはないでしょうか？・私は資格がないためよくわかりませんが、行政が求めている手話通訳士（者）のレベルをどの程度期待されているのか、手話通訳士を本格的に養成するのであれば、「滋賀県立聴覚障害者センター」で養成講座が受講料無料（テキスト代自己負担）で開催されています。しかし、場所的に遠方であり受講する方もそれなりの意識レベルが必要であると思います。また、行政がどのような形で支援できるのかも不明です。・ネイティブサイナーの方との交流がサークルに限られることが多いので、普段から集まって会話ができるような場があれば良いと思う。例えば、サロンのようなものをサークルに関係なく、企画開催して気軽に集まったり情報交換できる場があると嬉しい。・通訳を目指さない理由にも書いたけれど、「福祉」のイメージが強く、ボランティアや低収入のイメージがあるので、「言語」として他の通訳（外国語）のようにしっかりとした立場を確立する必要があると思う。・大変なイメージを改善するのが大事だと思う。・学ぶ場所を増やす。・時間帯（働いてる人が利用しやすいなど）を考える。・遠方ばかりでなく、近くで養成講座とかやってほしい。

- ・ろう者との交流の場を作ってもらって、通訳士（者）の必要性を感じることも大事だと思います。サークルだけでは限界があり、キチンとした指導が出来る指導者が必要なのではと思います。・自分一人だけでは勉強方法や読み取り勉強はなかなか上達しにくいと思います。現在、市内の小学生が福祉学習のひとつとして（ほとんどが4年生）手話の体験があります。中学生や高校生にも学ぶ機会を作り早くから手話通訳士を目指す環境作りができないでしょうか。・手話通訳者はとても難しいです。年1回だけの試験ではなく、数回あると良いと思います。・市長さんが市のホームページであいさつをして欲しい。
- ・指遊び感覚で手話に抵抗なく取り組んだり親しんだりできる幼児期位からカリキュラムに入れて取り組む。※子供は遊びとして手話を楽しみ馴染むのが早いが大きくなるにつれ、特殊なものとして抵抗を感じる人が多くなる。
- ・手話通訳ができる人の待遇改善※昔からのボランティア意識を無くしていき、仕事として確立させていく。・幼保などから早期教育（歌や動物、乗り物など手遊び的などところからやれば楽しく覚えられる。）大きくなるにつれて特別なもの、特殊なことと捉えたり恥ずかしさが出てくるなど、ハードルも高くなっていくのでは・・・
- ・地域向けのTVなどで広く知ってもらおう。（講座、サークルなどの場所や時間、曜日）
- ・湖北（特に長浜）でもっと手話に触れ、手話を身近に感じられる機会を増やすこと。・手話を学ぶ場を増やすこと。指導者や講師を招いて、学習の機会を増やすこと。
- ・養成講座には、行きたくてもいけない事情もあると思います。仕事が休めない、経済的な理由など色々あると思います。通訳士（者）を目指すにはサークル以外での学習の場所が必要かとも考えます。

15. その他（自由なご意見）

- ・まずは市役所や学校など公の場で働く方たちへ手話研修や資格取得を広げることが大切だと思う。そして、あまり遠くない未来に「資格取得者の採用」も増やしていくことが大切だと思う。わかりやすい「資格」を1つの目安にすることは必要なことであり、周りの理解も得やすくあるというメリットがあるけれど、「資格だけ」を大切にしすぎると他の者を排除してしまい、別のアプローチから「手話の普及」に取り組んでいる人たちの可能性をつぶしてしまうので、あらゆる方法を視野に入れて「資格のある人もない人もみんなで手話を広めていく」というスタンスが大事だと思う。私は、今は資格を目指さず、小さな子供たちが楽しんで手話に出会える「手あそび手話」の活動に力を入れていきたいと思っています。ゆくゆくはお年寄りの認知症予防体操として手話の歌なども広めていきたいと思っています。
- ・私が子どもの頃と今と、聴覚障がい者の方たちが置かれている状況などに大きな変化が感じられずとても悲しい気持ちになったことがあるので、今回の条例で大きく改善されることを願っています。その為に私にできることがあればいくらかでもアイデアを出しますし、できる協力はしたいと思っています。このようなサークルや、市町の事業がもっともっと増えていくことを願います。・障害者にふれあう機会を設けるべきだと思う。障害者が共に会える場所があれば良いと思います。・全国に、又長浜市に手話を必要とされている方がどれくらいおられるのか？その方々の職務、人数等、ろう者の方々の情報を何らかの形で知ることができれば関心が増えるのではないかと思います。私の地域では、ろう者の方がおられないため（個人情報？）、お会いすることもなく、手話も全く使うことがありません。唯一手話サークルでのコミュニケーションが楽しみです。
- ・私は聴者ですが、高齢社会についてはろう者の方も同じであると考えます。近々に高齢聴覚障害者のニーズ調査の結果が報告されますが、行政においても可能な範囲でこの結果を種々な施策に反映されるようお願い致します。また、今後制定される予定の言語条例を検討する際の資料等に活用されるようお願い致します。幼少期から手話に親しむ環境作りが大切だと思う。
- ・「言語」として条例になるのであれば「英語」と同じように扱われても良いと思う。外国に方への配慮も大切だが、同じ日本に生まれて暮らしている方への配慮や対応が遅れているのが残念に感じる。
- ・生活に欠かせない公共の場で手話があたり前に使える方がもっと増えても良いと思う。市役所職員の方が研修（手話の習得）や学校教育の中での学習機会（授業前の5分学習などの時間利用）など、もっと手話が身近に感じられるようにして欲しい。
- ・手話の必要性や大切さはある程度認識されていると思うが、身近にないので、他人事のように思ってしまうがちで、自分がやってみようと思えるきっかけが少ないと思う。
- ・子どもの頃にやったことは「できた」「やった」というプラスイメージで記憶に残るので、大人になったてからのチャレンジにハードルが低くなると思う。子どもの頃の成功体験が大事だと思う。

- ・奉仕員養成講座後、ステップアップもなく受けて終わりになっている。サークルに入っても、しゃべってばかりで手話が覚えられないし、聴者の対応手話ばかりで、ろう者の手話にふれられない。講座の様に、ろう者・聴者の講師から学べる。あるいは覚えた手話を使える、交流の場が増えればいいな～と思います。初心者のうちは何を習っても楽しいのですが、中級になると会話（読み取り・表現）を勉強したいのに、場所も相手もなく、もういいか．．．とやめてしまう人も居ます。
- ・手話に関われる場所がないと通訳者（士）も、増えていかないかもしれません。（個人の意見です）
- ・市政の方いつもありがとうございます。福祉は大切な事ですのでこれからも協力しますのでよろしくお願いします。
- ・文化祭（各学校や市町村）等に手話のパフォーマンス。
- ・市役所、病院、JA、郵便局等に手話のできる人を配置する（人数を増やし各課に配置）※少なくとも公務員と言われる人は手話の講座を受ける。※手話のできる人を優先するなど。資格も大事だが、資格がなくても手話を頑張ってる人達もいます。そういった頑張ってる人達に対して、有資格者の人が「無資格なのに．．．」と下に見る様な態度をとると習い続けようという意欲が無くなったり、少しでも市からなれば．．．などの気持ちが削がれたりする。手話のレベルに関係なく、手話を大切に思う人達が前向きに共に学び取り組める環境作り、雰囲気が必要不可欠だと思う。現在、手話通訳者養成講座受講の為、ほぼ毎土曜日に草津まで通ってます。受講者で湖北からは私一人です。もっと近くで開催されれば湖北からの受講者も増えると思います。手話通訳士（者）として専任として仕事にするのか、安定して生活するために仕事を持っていて、手話もしたいからと時々通訳に行く、という事もあるかと思えます。通訳士（者）というより意思疎通、信頼関係の方が資格よりも大切であるという事も感じます。聴覚しょうがい者の方は、本音でどれくらい通訳士（者）を利用したいと考えているのでしょうか？